

- ◎家畜伝染病の防疫対策にしっかりと取り組もう。**
◎計画的な牧草収穫作業と早めの暑熱対策を進めよう。

乳用牛

1 周産期病を防ぐ飼育管理

(1) 飼育環境

泌乳期から乾乳期へ移行する際は、環境の急変を避ける。また、乾乳期は、自由運動や日光浴ができる環境で飼育し、牛にストレスを与えない。

(2) 飼料給与

ア 乾乳直後から分娩予定日の3週間前までの乾乳前期は、過肥を避けるために粗飼料主体の給与とし、濃厚飼料給与量は1日当たり1～2kg程度とする。また、カルシウムの体内への蓄積を促すため、飼料用タンカルの添加などによりカルシウム含量の高い飼料を給与する。

イ 分娩予定日の3週間前からの乾乳後期は、分娩後に骨からのカルシウム動員が円滑に行われるようカルシウムの給与を中止する。濃厚飼料給与量は1日当たり4kgを上限として徐々に増やし、分娩後の濃厚飼料の多給に備え、第1胃を馴致させる。粗飼料は、良質なものを引き続き十分に与える。

ウ 分娩後は、飼料の急変を避け、粗飼料の食い込みを確認しながら濃厚飼料を徐々に増やす。また、乾物摂取量の低下を招かないために、良質な粗飼料を与える。

(3) ボディコンディションスコア（BCS）及び体重

ア 泌乳後期は、BCSを3.25前後で維持するように努める。

イ 乾乳期は母体の維持と胎子の発育のため、体重の増減がないよう適正な飼料給与に努める。

(4) 適切な分娩介助

分娩時において、無理なけん引介助を行うことで、子宮の回復や初回排卵日が遅れ、受胎率低下を招く可能性があるため、適切な分娩介助に努める。

2 暑熱対策

(1) 牛舎内の風通しを妨げる障害物等を取り除き、より効果的な自然喚起を促す。

(2) 送風機は牛体の背中や胸に風が当たるように角度と向きを調整し、定期的にファンの掃除を行うことで送風効率を向上させる。

肉用牛

1 放牧牛の飼育管理

- (1) 下痢、肺炎及び皮膚真菌症などの罹患牛は放牧させない。
- (2) 放牧前に、アカバネ病と牛クロストリジウム感染症のワクチンを接種する。
- (3) 疾病のまん延を防ぐため、異常牛の早期発見、隔離及び治療に努め、定期的な駆虫薬の使用を心掛ける。肢蹄の健全性には特に注意を払い、跛行などの異常を発見したときは速やかに処置する。
- (4) ミネラル分が不足しないよう、水飲み場などに鉱塩を設置する。
- (5) 草丈 20～30 cm で放牧を開始し、滞牧日数は長くても 1 週間以内とする。

2 子牛の放牧

- (1) 子牛の肢蹄を鍛え、丈夫で健康に育てるため、積極的に放牧を活用する。
- (2) 初放牧牛は、ピロプラズマ病に抵抗性がないので、外部寄生虫駆除剤を定期的に使用する。
- (3) 下痢や肺炎に罹患すると急激に衰弱するため、こまめな看視と早期治療に努める。

3 温度や湿度の対策

- (1) 牛舎には湿気がこもらないように、窓の開放や換気扇により十分な換気を行うとともに、通風を妨げるような資材や機材等は置かないようにする。
- (2) 遮光ネットの設置、屋根への白い塗料や石灰乳の塗布は牛舎内温度の上昇を抑制できる。牛舎内外や牛体への直接の散水も効果的である。

豚

1 衛生管理

豚熱などの家畜伝染病の発生を防止するため「飼養衛生管理基準」を遵守し、特に次のことを徹底する。

- (1) 部外者や車両の農場立入りは原則として禁止し、衛生管理区域への出入りが必要な場合には車両を含め消毒を徹底する。
- (2) 病原体を豚舎内に持ち込まないようにするため、豚舎出入口に消毒設備を設置し、出入の際の手指の洗浄及び消毒に加え、踏込み消毒槽を設置し、靴の消毒を徹底するとともに、豚舎ごとに専用の衣服及び靴等を着用する。
- (3) 豚舎へのいのしし等の野生動物の侵入防止を徹底するため、防護柵を設置するとともに、排せつ物等が飼料や飲水に混入しないようにする。
- (4) 日常の観察を徹底し、異常豚の早期発見に努めるとともに、発見した場合は、速やかに家畜保健衛生所に連絡し指導を受ける。

2 暑熱対策

- (1) 豚は高温多湿に弱いので、窓の開放、換気扇や扇風機などにより、舎内の換気をよくする。なお、開放部分には網目の隙間が2 cm以下の防鳥ネット等を設置する。
- (2) 子豚には、扇風機などの風が直接当たらないように、風よけや保温箱を設置する。
- (3) 繁殖豚は、暑さが続くと食欲が落ち、必要な養分量を食い込めなくなるため、朝夕の涼しい時間帯に給与し、15分～30分で食べきる量を数回に分けて与えるなどして、採食量を確保する。また、できるだけ新鮮な冷水を給与する。
- (4) ストールで飼養する繁殖豚には、首や肩の部分に水滴を滴下させるドリップ・クーリングを実施する。
- (5) 種雄豚は、暑さによる造精機能の低下や交尾欲の減退を防ぐため、人工授精との併用により週2回程度の供用とし、交配はできるだけ涼しい時間帯に行う。
- (6) 肉豚は、事故や肉質の低下を防止するため、過密飼育を避け、出荷は朝の涼しいうちに行う。

鶏

1 衛生管理

高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の発生を防止するため「飼養衛生管理基準」を遵守し、特に次のことに心掛ける。

- (1) 部外者や車両の農場立入りは原則として禁止し、衛生管理区域への出入りが必要な場合には車両を含め消毒を徹底する。
- (2) 病原体を鶏舎内に持ち込まないようにするため、鶏舎出入口に消毒設備を設置し、出入の際の手指の洗浄及び消毒に加え、踏込み消毒槽を設置し、靴の消毒を徹底するとともに、鶏舎ごとに専用の衣服及び靴等を着用する。
- (3) 鶏舎への野生動物の侵入防止を徹底するため、鶏舎の破損部は速やかに修理するとともに、開放部分には網目の隙間が2 cm以下の防鳥ネット等を設置する。また、農場敷地内のため池等については野鳥の飛来防止対策を講じるほか、排せつ物等が飼料や飲水に混入しないようにする。
- (4) 日常の観察を徹底し、異常鶏の早期発見に努めるとともに、発見した場合は、速やかに家畜保健衛生所に連絡し指導を受ける。

2 暑熱対策

- (1) 飲水設備を点検し、常に新鮮な冷水を飲める環境を整備する。
- (2) 鶏舎内の換気に注意し、カーテンの開放等により風通しをよくする。また、必要に応じて大型扇風機やダクトによる送風を行う。
- (3) 鶏舎内への細霧や屋根への散水を行い、舎内温度を下げる。
- (4) 日よけを設置し、舎内への直射日光を避ける。

1 良質粗飼料の調製

- (1) 牧草の刈取りは、出穂始期から出穂期に行い、遅くとも開花始期までに終える。
- (2) 1 番草の収穫時期は好天が長続きしないので、サイレージ調製を基本とし、刈取適期に全ての草地を収穫できるよう計画的に作業を進める。
- (3) ロールベールサイレージを調製する場合は、原料草水分が 60%以下の状態で梱包し、その日のうちに密封する。ラップフィルムは通常の場合、2 回転巻き（4 層）とするが、夏を越えて給与する場合や多段積みで貯蔵を行う場合は 3 回転巻き（6 層）にして気密性を高める。
- (4) 乾草調製は、4～5 日間連続する晴天日が見込める場合に実施し、気象情報に十分注意しながら、雨が予想される場合は、早めにサイレージ調製に切り替える。
- (5) ロールベール乾草は、水分が高いと貯蔵中の発熱やカビの発生により品質の低下を招くほか、極端な場合は発火することもあるので、水分 18%以下で梱包する。やむを得ず水分が高い状態で梱包した場合は、速やかにラップフィルムで密封して発熱やカビの発生を防止する。

2 1 番草収穫後の追肥及び牛尿の利用

- (1) 収穫後は、速やかに追肥を行うことにより 2 番草の再生を促し、収量の確保に努める。
- (2) 窒素施肥量は、オーチャードグラス主体経年草地で 10 アール当たり 5～6 kg、利用初年目草地やチモシー主体草地では 3～4 kg とする。
- (3) 草地飼料作物への牛尿の利用

ア 牛尿中の肥料成分の把握

牛尿に含まれるカリ及び窒素の化学肥料代替量は、電気伝導度値を測定することにより推定できるので、表 1 に示す施肥基準に応じた牛尿施用量を設定する。

表 1 電気伝導度値 (EC) による牛尿現物 1 t (1 m³) 中の化学肥料代替量 (kg) 推定値

成分	EC (mS/cm、25°C補正值)									
	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50
窒素	0.27	0.43	0.65	0.95	1.31	1.74	2.25	2.82	3.47	4.18
カリ	1.11	1.73	2.34	2.96	3.58	4.20	4.81	5.43	6.05	6.67

イ 草地に対する施用法

草地へのカリ施肥量は窒素量の 2/3 を基準としているが、牛尿は窒素よりカリを多く含むので、牛尿の施用はカリ成分基準施用量を満たす量にとどめ、不足する窒素及びリン酸成分は単肥や N P 肥料を用いて補給し、成分のバランスを保つ。

ウ 飼料用とうもろこしに対する施用法

窒素成分で 10 kg/10 a 相当を上限として全面散布する。カリは無施用とし、リン酸は基準量を施用する。

3 飼料用とうもろこし畑の雑草防除

農作物病害虫防除指針に基づき、優占雑草の種類に応じて表2に示す除草剤により雑草防除を行う。不耕起播種等により雑草が生育しているほ場にとうもろこしを播種する場合は、とうもろこし出芽前までに除草剤(ラウンドアップマックスロード)を散布する。

表2 飼料用とうもろこしの雑草防除における土壌処理剤と茎葉処理剤の組み合わせ適否

土壌処理剤	茎葉処理剤									
	ゲザプリムフロアブル	ゲザノンゴールド	ワンホープ乳剤	シャドー水和剤	バサグラン液剤	ハーモニー TM	ベルベカット乳剤	アルファード液剤	ブルーシアフロアブル	バスタ液剤
ゲザプリムフロアブル	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ゲザノンゴールド	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
デュアールゴールド	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴーゴーサン乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラッソー乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エコトップP乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クリアターン乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラクサー乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モーティブ乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ボクサー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フィールドスターP乳剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

注1) 土壌処理剤としてのゲザプリムフロアブル、ゲザノンゴールド及びデュアール乳剤またはデュアールゴールドと茎葉処理剤としてのゲザノンゴールドを組み合わせた体系処理は避ける。

注2) 使用する除草剤の容器・包装ラベルに表示されている事項を遵守する。

注3) 農薬使用の際は必ず最新の「農薬登録」を確認する。

ツキノワグマ 被害防止対策

- 1 ツキノワグマ出没警報発令中！！（4月20日～11月30日）
 - (1) 1人での作業をできるだけ避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努める。
 - (2) 野菜・果実等の収穫残さや弁当の空容器などは、クマを引き寄せる原因となるため、農地に放置せず、適切に処理する。
 - (3) 農地周辺の藪を刈払って見通しを良くすることで、クマの隠れ場所を無くし、クマが農地に近づきにくい環境を整える。

詳細は県ホームページをご確認ください。

(https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kankyo/shizen/kuma_cyuu.html)

農業保険

- 1 農業保険（家畜共済・収入保険）などに加入し、様々なリスクに備える。
 - (1) 家畜共済
 - ア 死亡廃用共済：家畜が死亡、廃用となった場合に、家畜1頭ごとの資産価値を補てん
 - イ 疾病傷害共済：家畜が疾病、傷害をおった場合に、診療費の9割を補てん
 - (2) 収入保険
農業者の経営努力では避けられない収入減少を、直近5か年の収入を基準に補てん
- 2 農業保険には、加入資格者の要件や事故除外方式があるほか、牛マルキンや加工原料乳生産者経営安定対策など同時加入できない制度があるため、詳細は近くの農業共済組合へ相談する。